

九州新幹線全線開業記念事業

「ファッション 時代を着る」展

A VISION OF FASHION
from the early 20th century
to the present day

熊本市現代美術館

2011年6月25日（土）－9月4日（日）



ピエール・バルマン 1956年秋冬
京都服飾文化研究財団蔵 撮影：畠山崇

平素から、当館の展覧会活動に対して、ご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、熊本市現代美術館では、2011年6月25日（土）～9月4日（日）まで「ファッションー時代を着る」展を開催いたします。

「ファッション」は、そのきらめきや輝かしさにおいて、私たちを高揚させると同時に、常にその時代における新たな存在への変容を喚起し、来たるべき時代を生き抜くためのコスチュームとして発展してきました。

本展は、京都服飾文化研究財団（KCI）との共催事業として、同財団の全面的な協力を得ることにより、その世界に誇る貴重なコレクションの中から、ドレスをはじめコルセット、靴など約100点を厳選し、20世紀初頭から現代におけるファッション史を通覧するものです。

19世紀末ヨーロッパを代表するメゾンであったウォルトにはじまり、シャネル、クリスチャン・ディオール、イヴ・サンローラン、ピエール・カルダンなど、現代にも脈々と受け継がれる絢爛たるファッションの文化がパリで花咲きました。

また、19世紀末から20世紀初め、西洋は日本文化に新しいイメージ・ソースを求め、ジャポニスムが広がります。それはファッションにも影響が及びました。20世紀末、日本からイッセイ・ミヤケ、ヨウジ・ヤマモト、コム・デ・ギャルソンらが世界の注目を集めます。そして、新世代のフセイン・チャラヤンから、今後活躍が期待される気鋭の日本の若手デザイナーまで、本展は、いわばファッションの「王道」を過去から未来へとたどる展覧会となっています。

つきましては、ご多忙の折とは存じますが、同展についてご紹介いただきますようよろしくお願い申し上げます。

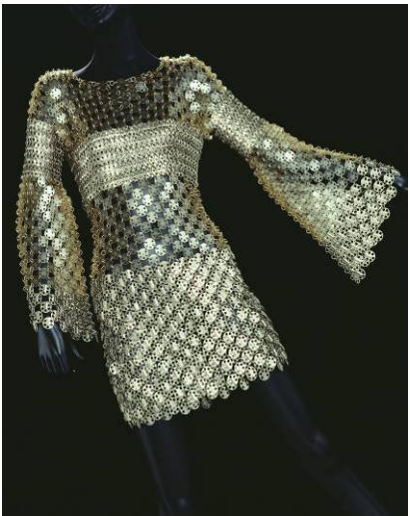
【出品レーベル/作家】

アズディン・アライア、イッセイ・ミヤケ、イヴ・サンローラン、ヴィヴィアン・ウエストウッド、ウォルト、クリスチャン・ディオール、クレージュ、クロエ、グッチ、コム・デ・ギャルソン（川久保玲）、シャネル、ジャック・ファット、ジャン＝ポール・ゴルチエ、ジャンヌ・ランヴァン、ジュンヤ・ワタナベ、ジョルジオ・アルマーニ、ジバンシィ、スキヤパレリ、セディシヨナリーズ、ソニア・リキエル、ダニエル・エシュテル、ティエリー・ミュグレー、トキオ・クマガイ、ドロテビス、パコ・ラバンヌ、

バルマン、ピエール・カルダン、ビバ、ビュロ、フセイン・チャラヤン、プラダ、ポール・ポワレ、ま
とふ（堀畑裕之、関口真希子）、マドレーヌ・ヴィオネ、マリア・モナチ・ガレンガ、マリアノ・フォ
ルチュニイ、ミキオサカベ（坂部三樹郎、シュエ・ジェンファン）、ミントデザインズ（勝井北斗、八
木奈央）、ヨウジ・ヤマモト、ルイ・ヴィトン、ルディ・ガーンライヒ、ロメオ・ジリなど、全約 80 点
【靴／ヒール】 ヴィヴィアン・ウエストウッド（1点）、トキオ・クマガイ（12点）の靴、アール・デ
コのヒール（24点）

【コルセット】 1860～90年代のもの（6点）

【主な出品作品】



上左：ウォルト 1900年、上中：クリスチャン・ディオール 1947年秋冬、

上右：アメリカ 1966年頃、下左：パコ・ラバヌヌ 1969年春夏、下中：ジャン＝ポール・ゴルチエ 1987年春
夏、下右：フセイン・チャラヤン 1995年秋冬 以上すべて京都服飾文化研究財団蔵、畠山崇撮影 ただし、下左
は広川泰士撮影



上左：イヴ・サンローラン 1967年春夏、上中：ヨウジ・ヤマモト 2007年秋冬、上右：コム・デ・ギャルソン 1997年春夏、中右：ジュンヤ・ワタナベ 2000年秋冬、中中：ディオール 2001年春夏、中右：まとふ 2010年春夏、下左：トキオ・クマガイ 1984年頃、下右：イギリス 1980年代後半 以上すべて京都服飾文化研究財団蔵、畠山崇撮影。ただし左下は林雅之撮影、熊谷登喜夫氏寄贈

【開催概要】

展覧会名：「ファッションー時代を着る」展

開催期間：平成23年6月25日（土）～9月4日（日）

会場：熊本市現代美術館 企画展示室Ⅰ・Ⅱ

開館時間：午前10時～午後8時（展覧会入場は7時30分まで）

休館日：火曜日

観覧料：一般1000(800)円、高・大学生500(400)円、小・中学生300(200)円、熊本市、福岡市、鹿児島市の市内小・中学生は無料（名札など証明できるものをお持ち下さい。）（ ）内は前売り及び20名以上の団体料金、身体障害者手帳等をお持ちの方、または熊本市、福岡市、鹿児島市の市民で65才以上の方。ただし、小・中学生は団体割引のみで前売りはありません。ゆかた祭り開催日（7月16・17日）は浴衣着用者は観覧料半額。

主催：熊本市、熊本市美術文化振興財団、公益財団法人京都服飾文化研究財団、熊本日新聞社、熊本放送

助成：公益財団法人朝日新聞文化財団

後援：熊本県、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本県文化協会、熊本県美術家連盟、NHK熊本放送局、JCN熊本、熊本国際観光コンベンション協会、エフエム熊本、FM791

協力：株式会社ワコール、ヒロ・デザイン専門学校

【会期中の主なイベント】

◆深井晃子(KCI チーフ・キュレーター)講演会 6月25日（土）14:00-15:30 ホームギャラリー 入場無料

◆CAMK レクチャーカレッジ 7月3日（日）14:00-15:30 ホームギャラリー 入場無料
「イギリス美術とファッション」桜井 武（当館館長）

◆特集展示「matohu 慶長の美」（6月25日～9月4日、井手宣通記念室、入場無料）

matohu（まとふ／堀畑裕之、関口真希子）による長着（ながぎ）を中心としたミニ展示。

◆matohu アーティストトーク「めざせ！デザイナー」 8月6日（土）14:00-15:30 ホームギャラリー 入場無料

ファッション・デザインに関心のある、若い人たちに向けたトークを行います。

◆ワークショップ「紙の服を作ろう」（7月30日（土）13:00-16:00 対象：小学3～4年生 定員：15名（要事前申し込み） 料金：500円）

展覧会を見た後にデザイン画を制作し、実際に紙（不織布）で服を作ります。

◆ヒロ・デザイン専門学校ファッション・ショー 7月31日（日）14:00-14:30 ホームギャラリー 入場無料

*その他、会期中イベントは多数ございますので、詳しくはお問い合わせください。

*本展は熊本市現代美術館のみの開催で、他館への巡回はありません。

お問い合わせ先

熊本市現代美術館（広報担当：沼沢・村上）

〒860-0845 熊本市上通町 2-3 びふれす熊日会館 3F

tel:096-278-7500、fax:096-359-7892

http : //www.camk.or.jp E-mail : numasawa@camk.or.jp murakami@camk.or.jp



・美術館入口(びふれす熊日会館 3階) までは、通町筋電停又はバス停から 徒歩1分です。電車通り側歩道から、エスカレーター又はエレベーターをご利用ください。

・「びふれす熊日会館」の駐車場は、数に限りがあります。できるだけ公共交通機関をご利用ください